

「カルトの説く霊的パラダイス」

ウィリアム・ウッド師のメッセージより

カルトへの道

1948年にイスラエルが奇跡的に建国され、1973年まで3回にわたってアラブ諸国の総攻撃を受けても、徹底的に勝利を収めたということは、アラブ諸国のイスラム教徒にとっては、言葉では言い表せないほどの衝撃を与えました。そこで、ある真面目なイスラム教徒は考えました。「このような悲劇が起こったのは、我々に対するアラーの裁きだ。我々は欧米の影響を受け過ぎて、コーランの教えから離れ、墮落してしまった。コーランに立ち返らなければならない。コーランの教えを土台としたイスラム国家を世界中に樹立させなければならない。また、ジハードをして、そのビジョンに反対する人々をことごとく殺さなければならない。特に、イスラエルを支援する米国は、大サタンであるから、徹底的にやっつけなければならない。」これが、いわゆるイスラム原理主義の元となった発想です。

カルト特有の体質とは

「イスラム国」を例に見ると、「アラーとアラーの預言者の声に従え」というメッセージが繰り返し出て来ます。ここには、カルト特有の体質が顕著に現れています。その体質とは、つまり権威主義です。神の権威を主張する教祖がいて、信者に対して無条件の服従を要請します。信者たちは、教祖を神の預言者と崇めているので、彼に従うことは神に従うこと、彼に逆らうこと＝神に逆らうこととなります。教祖からの命令はそのまま神からの命令ですから、それが最善だと信じて、何も考えずに実行します。ここに、残酷な行為ができるようになる要因があります。教祖は神の代弁者ですから、何を言っても、それは絶対に善です。教祖のビジョンに反対する者、協力しない者は悪です。また、教祖の目指すことは、神の御意志である地上におけるパラダイスの実現であり、それは人類にとって最も必要なことだと主張しますから、その目的達成のためなら、何をやっても良いという論理になります。多少の犠牲者が出たとしても、それはより大きな計画実現のために必要なことですから、仕方がありません。

権威づけの本当の狙い

教祖は、どこの国家指導者よりも大きな権威、権力を持つようになります。実は、ここに教祖の本当の狙いがあるのです。自分の王国の樹立です。アラーの名前を語っても、コーランや聖書を引用しても、「神の国」とか「パラダイス」という崇高なビジョンを掲げても、結局のところ、教祖が目指しているのは、自分の王国の中で絶対的な存在として崇められること、大勢の信者たちを完全に支配すること、自分の金銭欲・名誉欲・性欲を満たすこと、自分の人間的な野望を達成することです。教祖にとっては、まさにパラダイスなのかも知れませんが、信者たちはいずれ、必ず、地獄を見ることになってしまいます。

人がカルトに魅かれる理由

どうして、若者がカルト集団に走ってしまうのでしょうか。何に魅かれて、カルト集団にパラダイスを求めるのでしょうか。まず、様々な不満を持っていることが関係しています。「イスラム国」の戦闘員になる人々の大半は、貧しい国の出身です。彼らは、人間社会に対して、大きな不満や憤りを覚えています。「アラブの春」によって、自分の国の政治体制や経済状況などが変わることを期待したけれども、全く裏切られてしまった。何も変わっていない。むしろ、社会情勢が悪化している。その言

いようのない絶望の中で、預言者の声が聞こえて来ます。「私こそ、アラーのメッセンジャーである。私こそ、この地上にパラダイスを実現させるために選ばれた器である。」若者はこの力強い言葉に希望を見出します。藁をもつかむ思いで、預言者のもとにぞくぞく集まって来る訳です。そこで、彼らは希望だけでなく、生き甲斐をも見出します。預言者と共に戦うことによって、自分の存在に意義があったと感じるようになります。自信を持ちます。それなりの幸福感も味わうようになるのです。今までは、はっきりとした目的もなく、いい加減に生きていた。自分は生きる資格などないと考えていた。劣等感のかたまりだった。しかし、神の預言者に出会って、自分の人生が一変した。生まれ変わったような気分だ。「イスラム国」の戦闘員の多くは、このように証言できると思います。

カルトに魅かれる人の心理

自信のなさが現代人の際立った特徴であると言っても過言ではありません。この世の中が複雑になり、洪水のように情報が氾濫している中で、多くの人々は不安を覚えています。何を信じたらよいか、分かりません。多くの現代人にとっては、自分で考えて判断し、自分の人生に対して自分で責任を持つということ、とても苦手なことなのです。その理由はいろいろあります。まず、情報社会が受け身の人間を作っていると言われます。また、詰め込み教育が考えない人間、自分で考えようとしないう人間を生み出してきたとも言われています。さらに、生活が便利になるに連れて、面倒臭いことには手を出したくない、なるべく楽をしようという若者が増えていると聞きます。こうしたことを考えますと、現代人は影響されやすく、またコントロールされやすい性質を持っていると言えるでしょう。彼らは、自分の代わりに考え、判断し、責任を持ってくれる宗教団体に魅力を感じるのです。複雑な今の世の中で、多くの人間は迷っています。特に、経験に乏しく、人生問題を真剣に考える機会を持ちにくい若者たちは、自信を失っています。権威をもって単純な説明や回答を示してくれる宗教団体には、彼らは非常に弱いのです。神の権威を主張して、「これが絶対に正しい」と宣言する宗教団体があれば、その言葉に飛び付くのです。自分で考える苦勞を省くこともできるし、安心感を覚えることもできるからです。

カルトに応答する要因

このように、人間社会に失望している若者、生き甲斐のない若者、自信を失っている若者が、カルト教団の教祖に救いを求めます。また、ある場合、愛に飢えていることが、カルトの誘いに応答してしまう要因になることもあります。大家族が核家族化していく時と、核家族が個家族化していく時、宗教ブームが起こると言われています。なぜなら、本来あるべき、家族の交わりがなくなり、愛に対する飢え渴きを覚えます。自分の存在価値を誰かに認めてほしいという強い願望を持つのですが、なかなか、その悩みを打ち明けられる人はいません。ほめてくれる人もいません。家庭にも、学校にも、職場にもいません。しかし、カルト教団とかかわるようになると、ラブ・シャワー（愛のシャワー）が受けられます。教祖などから、素晴らしい才能があること、期待されていることを告げられます。皆から愛情を注がれます。親切にされます。このような待遇を受けるのは、教祖にとって利用価値があると認められた人、また、教祖の言うことを何でも素直に聞いて服従すると自ら証明した人だけです。このように、カルトにおける「ラブ・シャワー（愛のシャワー）」は、人をコントロールするための武器であり、巧妙な心理的トリックです。彼らの頭の中では、教祖に認められることイコール神に認められることですから、言われたとおりのことを忠実に行ないます。自分が愛されるに値する者であることを何とか、証明するために、犠牲を惜しまずに、文句も言わずに、教祖のビジョン達成のためにあくせく働いて行きます。それでもなかなか、合格点がもらえませんが、疲れて、ノルマの達成ができなくなると、あるいは教祖に対して少しでも反抗的な態度を見せると、買い捨てカイロのように、切り捨てられるのです。

カルトの信者は、様々なものを求めて、入信する訳ですが、忘れてはならないのは、彼らはカルト教団の中に自分の求めていたものがあつたと固く信じていることです。確かに、カルトには、一種の平安もあり、愛もあり、生き甲斐もあり、人生の様々な問題に対する答えもあります。しかし、それらはすべて、偽物なのです。例えば、彼らは教祖の掲げるビジョンに協力することによって、素晴らしい生き甲斐を見出すことができたと思っています。世界平和に貢献していると喜んでいますが、しかし、実際のところ、教祖に利用されているのであって、教祖の勝手な妄想に振り回されているだけです。カルトにおける「愛」も、人をコントロールするための条件付きの愛ですから、本当の愛とは言えません。

カルトからの脱退者への理解の必要

①受容

カルトからの離脱者は、大変な葛藤を経て、カルト教団を出る決意に至る訳ですが、ある意味では、そこから本当の戦いが始まると言っても、過言ではないと思います。そして、戦い抜くためには、どうしても周囲の人々の励ましや協力が必要です。まず、重要なのは、彼らの苦しみを受け止めることです。カルトの脱会者は、トラウマを受けた人々です。自分が真理だと思って心の支えにしていた教えが、実は嘘だと気付いてしまった。神の代弁者だと確信していたリーダーが、実は偽善者だと分かってしまった。神の家族だと思っていた仲間が、自分のことを「サタン」、「一致を乱す者」、「裏切り者」と罵るようになった。楽園の希望も生き甲斐も喜びも交わりも、一瞬のうちになくなってしまうのです。その喪失感、絶望感、虚無感などは、言葉では言い表せません。このようなカルトの脱会者に必要なのは、まず自分の話を聞いて、自分の苦しみを受容してくれる人です。

②励まし

とあるグループに属しておられる方で、前から創立者のA牧師に対して疑問を持っていたそうです。しかし、A牧師を批判すると、周りから「感謝だよ」と言われるというのです。これは、「感謝と賛美の口封じ」と言われるもので、上の人の行なった良くないことは感謝するということになっているそうです。次に、カルトの脱会者のフォローアップに大事なものは、彼らの傷ついた自尊心の癒しです。言うまでもなく、彼らはカルトの罠に引っ掛かってしまった自分を責めます。自信をなくしています。また、マインド・コントロールの影響で、思考力も、判断力も、決断力も低下しています。カルトでは、ほとんど自分で考える必要などありません。上からの指示に従えば良いのですが、人間の頭脳は筋肉と同じで、使わなければ衰えてしまうものです。しかしまた、再び使うようにすれば、元どおりの力が回復します。ですから、自信がなく、自分で何も決められないでいるカルトの元信者に対して、励ましが必要です。

③みことば

カルトで植え付けられた恐怖心で悩む人もいます。これは人をコントロールするための手ですが、カルトの信者は絶えず、このように教育されています。「あなたがこのグループを離れたら、神に裁かれる。私の言うことを聞かなければ、地獄に落ちる。私に従わない者は皆、死ぬ。」カルトの間違いに気付いて離れても、この恐怖心はなかなか消えるものではありません。カルトの脅迫的な言葉を打ち消すために、更に強力な言葉、つまり、正しいみことばが不可欠です。

※ このメッセージの動画は、CVSAのサイトで見るすることができます。また、DVDも販売しています。

<http://cvsa.jp/>